

助成事業実施報告書

団体名 こども応援隊代表者・役職名 氏名 会長 林 茂 伸

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

真如苑 こども食堂支援助成

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

こども食堂— 当初、毎月最終火・水曜日(50食×2回)の100食まで提供しました。公共施設は使えないので、1回限度50食まで2日間で提供しました。SDGsからも個別の容器を止め、家庭毎に鍋・タッパーを持参して大鍋より分ける方式としました。どんな家庭でも参加可能で、その中に要支援家庭が幾つかあり、食事の反応と共に家庭事情やこどもの様子を聞きます。8月から大型コンロのある公共施設が使用可になり、月一回こども100食までと変更しました。新規申込み毎回のようになり、親の間に拡がりを見せ、需要が大きくなっています。

制服リユース— 2月に中学生の制服リユース事業チラシを、学校を通じて保護者に配布しました。4~5月まで公民館ロビーの衣装ケースに、不用かつクリーニング済の服を入れてもらいます。それらを纏めて10月末、希望者に廉価で販売する日を設けました。無償でなく廉価であることが良く、2日間の試着販売で18家庭が訪れ好評でした。販売日前後の問合せもあり、通年販売もしていく事になりました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

- ・こども食堂「ねやねや亭」年16回開催し、大人399人、こども969人、計1368人に食事を提供しました。弁当方式から大鍋方式への転換は、SDGs廃プラスチック使用減と併に、弁当詰め時間の節約が図られ、今後の活動方向となりました。併せて「フードバンク」や村内寄付物なども提供し、家庭支援を行ないました。
- ・これまで「こども食堂ねやねや亭」に来なかった家庭が、新規参加として申込して来ました。月一回の食事提供がとても有り難いという声が多く、大きな家庭支援になっていることが分かりました。
- ・こども応援隊のメンバー以外に、時間を限って食事作り参加の家庭もあり、ボランティアの輪が拡がりました。
- ・こども食堂「ねやねや亭」の旗を見て、お米や野菜などを寄付してくれる、運動の拡がりや繋がりが出来ました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

- ・以前コロナ禍で、公共施設が使えなくなり、こども食堂を中止する事態もありました。また、寄付してくれる米や食品などを保管するところがなく、寄付を断ったり分散保管などしています。これらの課題のため、業務用コンロを備えた拠点があればという声が挙っています。公共施設の使用都合に合わせるのではなく、独自に事業を行える環境が、今後の子育て支援や貧困家庭支援に必要です。
- ・要支援家庭の掘り起こしは、この間かなり進んで来ました。それらの家庭と、どうコミュニケーションを取り続けるかが課題です。
- ・子育て支援と同時に、不登校のこども支援の課題があります。こども食堂の専属施設があれば、それを第3の学校としても使えないかという意見もあり、課題は子育て全般に関わってきました。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

こども食堂「ねやねや亭」 食事配布の様子

